

農産FAX情報 第9号

令和5年9月15日

ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

(1) は種適期

○「きたほなみ」は、越冬前までに主茎葉数5葉、茎数370~900本/m²程度を確保することがのぞまれます。適期には種作業ができるよう準備を進めましょう。

(2) は種量

○は種量は、は種時期に合わせて調整しましょう。幕別町忠類で使用予定の種子千粒重は以下のとおりです。

帯広大正産 42.3g 足寄町産 41.7g

○粘質土壌や過湿土壌では、出芽率低下を考慮して表1から1割程度増量してください。

○は種深度は2~3cm程度となるよう、は種機の調整を行いましょう。深播きは、出芽率の低下や二段根の発生、雪腐病等の発生要因となります。

(3) 施肥

○基肥窒素量は肥沃度が低い場合や、有機物のすき込みによる窒素飢餓が懸念される場合は4kg/10a程度を目安とし、前作やたい肥投入に応じて施肥量を減らしましょう。リン酸、カリ、苦土については土壌診断の結果に基づき施肥量を調節しましょう。

(4) 除草剤の使用

○イネ科雑草対策には秋期の土壌処理が効果的です。小麦3葉期までに、土壌処理作業を行いましょう。(薬剤例 ガレース乳剤)

表1 は種量の目安 (大樹アメダス平年値使用)

区分	適期播き	やや遅播き	遅播き
は種日	9月19~22日	9月23~25日	9月26~29日
は種粒数(粒/m ²)	130~170	170~210	210~250
帯広大正産 は種量(kg/10a)	5.5~7.0	7.0~9.0	9.0~11.5
足寄町産 は種量(kg/10a)	5.4~6.9	6.9~8.9	8.9~11.4

※は種量は、越冬前茎数800本/m²、出芽率90%で算出

2 てんさい

(1) 褐斑病の防除

○発生拡大に引き続き注意が必要です。ほ場を確認し、防除を行う場合には薬剤の使用時期等に注意し、適正に防除しましょう。

(2) シロオビノメイガの防除

○シロオビノメイガによる被害が確認されております。被害の拡大が予想される場合は防除を行いましょう。なお、防除を行う場合は薬剤の使用時期に注意しまししょう。

(3) 除草

○雑草の発生が多い場合は、翌年度の発生を防ぐため、抜き取りや刈り取りを早めに行いましょう。

3 豆 類

(1) 大豆における腐敗粒の拡大防止

○腐敗粒発生ほ場が散見されます。症状は上段の莢に多く見られ、莢は黒く褐変し、子実には白～褐色に変色しております。

○ほ場観察により発生が確認された場合は防除を検討しまししょう。なお、薬剤散布の際は収穫前日数を確認しまししょう。

表2 大豆腐敗粒の防除例

薬剤名	希釈倍率	使用回数	使用時期	系統
アミスター20フロアブル	2000倍	2回	収穫7日前まで	QoI

(2) 収穫作業

○今年の成熟期は、早まることが予測されます。倒伏や子実水分、葉落ち程度を確認し、収穫機を調整して下さい。

○小豆や菜豆のピックアップ及びコンバイン収穫は、下表を参考に実施してください。

表3 ピックアップ収穫の要点

区分	小 豆	手 亡
刈取	熟莢率100%の日から2週間以内 (子実水分16~18%が目安)	熟莢率100%の日から 1週間以降
脱穀	土壌表面が乾燥している時に行う	

収穫が近い作物へのドリフト防止！

追突防止に「反射テープ」の装備を！

トラクタや作業機には早めのライト点灯！

作業中の収穫機点検は必ずエンジンを止めて！